新商品・新サービス開発支援 山形県真室川町 最上伝承野菜を発 生産者と消費者を 、新サービス 徴です うな舌触り。もっちりとした強い粘り気が特 月山を望むことのできる自然豊かな里山で、 うな田園風景。北には出羽富士鳥海山、南には 土地柄 ・課 題 わず昔ながらの栽培法を守り、手間とコスト 農家は各地に残っているものの、品種改良を行 野菜」と呼ばれる様々な野菜があります。生産 や勘次郎胡瓜、最上赤にんにくなど「最上伝承 五右ヱ門芋は、驚くほど柔らかくとろけるよ す。場所を変えれば味も変わってしまいます」 いと美味しい甚五右ヱ門芋は生まれないんで をたっぷりと含んだ粘土層。「ここの土じゃな 土壌は畑の奥、魔ヶ谷地から流れ出る湧き水 承野菜の里芋「甚五右ヱ門芋」を育てています 藤さんの畑では先祖代々受け継がれてきた伝 むのは20代目、代表を務める佐藤春樹さん。佐 室町時代から続く伝承野菜農家 森の家を営 広がるのは自然本来の美しさを切り取ったよ 緑に囲まれた里山。森の中を進むと、目の前に と語る佐藤さん。そんな土のなかで育った甚 甚五右ヱ門芋の育つ最上地方には、畑なす 山形県真室川町の大沢地区にある、一面が 伝承野菜山形の自然がつくる

ない」「数がそろわない」などの声を耳にしま としている人がいることを実感。需要者と生 す。これを聞いた佐藤さんは、伝承野菜を必要 創 意 工 夫

られるきっかけになるかもしれないと感じた 産者をつなぐことができれば、多くの人に知

般の消費者でも気軽に購入できるようイン 食店を中心に野菜を提供。甚五右ヱ門芋は一 に提供する最上伝承野菜セット「森箱」の販売 五右ヱ門芋をはじめとした伝承野菜を消費者 そうです。そこで県内の生産農家と連携し、甚 ・ビスを開始しました。県内外の旅館や飲 ・トでの通信販売も始めま



最上伝承野菜セット「森箱」

アカオニデザイン ホームページ・パッケージ

(助成期間H23.11~H24.10)

〈農林漁業者〉

 \wedge

伝承野菜生産者

伝承野菜の供給 (連携) ↓ ↑ ⟨中小企業者⟩ 伝承野菜農家 森の家 事業計画·商品企画·販路開拓

(協力)

取組の 成 果 |生まれる交流| 伝承野菜から

いるとのこと。毎月10 り体験が体験できるワー たレシピ本も販売しています。その他、芋掘 ルケッチァ のレシピを日本料理人の澤内秀良さんやア 約販売をしているほど。美味しく食べるため は甚五右ヱ門芋の収穫量が追いつかずに予 承野菜。その味は口コミでも広がり、問い合 わせも増えているといいます。ネット通販で 渡り、お客様が口にする機会も多くなった伝 ビスを開始したことで、料理人の手に ノの奥田政行さんと共同開発 クショップも行って

事業実施体制

山形大学MOT

伝承野菜の成分分析

手間とコストがかかる 伝承野菜

遊ぶをコンセプトにした芋祭(イモフェス)を

への関心が高まっていることを実感している 開催するなど、イベントを通しても伝承野菜

中から教わることもたくさんあります」と話 見極めることが大事なのだそうです。「交流の の交流を大切にし、どんなものを作っているか のおじいちゃ 質管理など責任をもって商品を提供すること 分が作ったもの以外を売る難しさもあり、品 野菜と比べて高いと思われることもしばしば そのため価格を落とすことは難しく、普通の を心がけているそうです。そのためには地元 いこともあります」と語る佐藤さん。また、自 と思うのですが、なかなか理解してもらえな 「食べてみるとその違いをわかっていただける にこだわり手間暇かけて作られたのもばかり してくれました。 森の家で扱っている伝承野菜はどれも品質 んおばあちゃん、生産農家の方と



おばあちゃん達の手できれいに なった甚五右ヱ門芋。全て手作業で

の展望を語ってくれまし

られる場所にしたいと思っています」と今後 たら採れたての伝承野菜を使った料理が食べ いたところにある古民家を改装中。「完成し

伝承野菜農家 森の家では、畑から少し歩

たい」という想いで、販売サー

今後の

課題·展望

|美味しさを

菜の加工品開発が目標。伝承野菜農家 門芋の栽培・加工・販売もしているそう され、小学校の授業の一環で、甚五右ヱ できているとのこと。地元の方にも認知 を通して伝承野菜をお届けすることが れています。これまで「伝承野菜を伝え を味わいながら交流する場として営ま る方を対象に地元の鮎取り名人や料理 家は現在「森の家の宿」として、ご縁 です。今後は通年で販売できる伝承野 なくても、信頼できる飲食店やお客様 上手なおばあちゃんと地域の伝統料理 あれから5年。当時改装中だった古民 が、現在では繋ぐための仕掛け など模索してきた佐藤さ



会社概要

行われます

伝承野菜農家 森の家

所/〒999-5521 山形県最上郡真室川町大沢2261 電 話/0233-63-2651

ホームページ / http://www.morinoie.com

事業の今 これから

みたいけど、

どうやったら手に入るか分から

の旅館やホテル、飲食店で「伝承野菜は使って

いた佐藤さん。ある時、営業で足を運んだ県内

伝承野菜の魅力を伝えていきたいと考えて

森の家の挑戦はまだまだ続きます。 -ビスや各 が あ h



家の数もそう多くはありませんでした。佐藤 がかかる伝承野菜は収穫量も少ないため、農

さんはこの貴重な伝承野菜を後世に残し、山

形の食文化の深さを県内外の人に広めたいと

強く想うようになりました。

取組の

経緯

| 必要としている-



